

文 国語国文学 コース

Japanese Language and Literature

言語文化学科



国語国文学コースとは？

その魅力って？

国語国文学は、日本語による、人間の理性や感情にかかわるあらゆる表現行為を分析対象として、日本人の精神文化に迫ろうとする学問です。当コースのモットーは、「テクストを時代の文脈の中に位置づけて読む」——作品を私たち現代人の価値観に引きつけて読むのではなく、平安時代の物語なら平安人の視点で、大正時代の小説なら大正人の視点で読む。比喩的にいえば、古人と対話を交わしつつ、相手を理解しようとする姿勢で読むということです。古典に「日本の異文化」を発見しながら読みを深める中で、作品の秘められた魅力が姿を現します。

先生ご自身の専攻と

そのやりがいとは？

私は主に説話文学について研究しています。説話とは伝承のうちに磨き上げられていくものであり、集団の意志から形成されるものです。説話集では一つ一つの独立したお話が秩序に沿って配列されていますが、そのなかで作者は自分自身の世界観を提示しようとしているため、説話の研究を通して作者の持つ世界観や、作者本人についても考察することが出来ます。それが説話を研究することのおもしろみであり、またやりがいでもあるでしょう。



教授
小林直樹
【こばやしなおき】
先生



三回生
谷口眞琴
【たにぐちまこと】
さん

山本淳子
『源氏物語の時代——一条
天皇と后たちのものがたり』
朝日選書

紫式部や清少納言が活躍した一条朝。その時代には珍しい「純愛」の物語を、著者は平易な筆で愛情をこめて描いています。同じ著者による『平安人の心で「源氏物語」を読む』（朝日選書）もお奨め。

先生
おススメの本



おススメの授業は…

国語国文学講読Ⅰ～Ⅳ 国語国文学演習Ⅰ～Ⅵ

「講読」「演習」と名のつく授業が印象的です。この授業は学生が担当箇所を発表し、それに対して先生や院生の方々から指摘や助言をいただく形式なのですが、少人数制の授業なので、先生方との距離が近く、また古典作品について様々な視点から考えることができ楽しいです。

卒業論文タイトル紹介

- 『十訓抄』が勧奨する心の様相
- 「あはれなり」「おもしろし」「をかし」に関する各意味構造の考察
- 村上春樹の語る物語——治療されていく私——

学びの中でのエピソードを 教えてください

授業で扱う古典作品の内容からわかる昔の日本文化と、私たちが普段接している現代の日本文化を比較すると、意外な類似点や相違点が見えることがあり、それがとてもおもしろく、自分の視野を広げてくれる気がします。そして、授業でよくそういった体験をしているうちに、日常生活でもときどき自然と「今のこの文化はいつの時代の何に影響を受けたのだろう」と考えるようになりました。



国語国文学コースに とつての【旅】とは？

まずオーソドックスなところでは、鎌倉に幕府が開かれ東西の交通が活発化した中世、歌人や連歌師によってつづられた実際の旅の日記や紀行文（『十六夜日記』『海道記』など）が代表的な考察対象として挙げられます。また、旅の歌人として知られる西行を主人公に仮託した『撰集抄』という説話集を使えば、中世人がイメージした「遍世者のアイドル」、西行の旅を考察することができるかもしれません。一方、軍記では『平家物語』の「海道下」や『義経記』の「判官北国落」などが好きな考察素材でしょうか。前者は源氏の捕虜となった平重衡が鎌倉に連行される傷心の旅を美しい道行文でつづり、後者は落人となった源義経が弁慶ら腹心の郎党とともに北陸道經由で平泉に逃れるスリリングな旅を描きます。さらに、失踪した恋人を追って地中世界を旅する『諏訪の本地』や、亡き妻を訪ねて天空世界を旅する『毘沙門の本地』など、中世後期のファンタジックな物語を対象に、イメージシヨンの旅について考察することも可能でしょう。

文：小林先生



中国語中国文学コースとは？ その魅力って？

古代より中国と日本とは長い交流があり、例えば漢字や漢語語彙の伝来に我々は恩恵を蒙っていますし、そのほか孔子の『論語』、司馬遷の『史記』や李白・杜甫・白居易といった詩人の作品にも文化的な影響を受けていることはご存知のとおり。また、『三國演義』『水滸伝』などスケールの大きな物語に今も愛好者は絶えません。明治維新以降、日中間には不幸な時期もありましたが、アジアにおける近代化の光と影の両面を視野に収め、過去・現在・未来を通観しうる冷静な「目」を養うために、今一度、中国の地で花開いた多様な文化をじっくりと時間をかけて味わうこと。これこそが本コースの醍醐味です。

文 **中国語中国文学コース**
Chinese Linguistics and Literature
言語文化学科



准教授
大岩本 幸次
【おおいわもと こうじ】
先生

先生ご自身の専攻と そのやりがいとは？

字書を材料に漢語の音韻史を研究しています。言語史的関心が第一ですが、古来中国では字書の編纂という仕事はあまり脚光を浴びることがなく、そうした過去の人物の陰ながらの業績を、数少ない研究者の一人である私が論文などに書き残していきけることにもやりがいを感じます。字書だけに無味乾燥な作業も多いですが、書き上げた論文が後々に生きてくるなど、やはり積み重ねが大事だと充実感を覚えることもあります。また調査で国内外の様々な土地を訪れ、そこでしか読めない資料を読みふける時間も楽しいひとときです。



三回生
三宅 祐希
【みやけ ゆき】
さん

平田昌司
『孫子』—— 解答のない兵法』
岩波書店
(書物誕生 あたらしい古典入門シリーズ)

これまでの著者の仕事の例に違わず密度の大きい、徹頭徹尾、熟読に値する内容で、『孫子』の数々の意外な側面について知ることができます。今後、孫子を語る上で読まざるはずとされない資料の登場と言っても良いと思います。

先生
おすすめの
本

おすすめの授業は： 中国語演習Ⅰ

この授業では、中国語で書かれた小説を日本語に訳しながら読み進めていきます。日本語では味わえない、中国語ならではの表現やニュアンス、文学作品としての味わいを学べるところが特徴です。予習はかなり大変ですが、語学力もきちんと身につきます。少人数なので、和気藹々とした楽しい雰囲気での授業です。

卒業論文タイトル紹介

- ・中国語訳和合本新約聖書に関する考察—— 異文化コミュニケーションにおけるスコピス——
- ・新詞新語における「族」と「系」
- ・敗戦と復活から見る曹操の人物像

学びの中でのエピソードを 教えてください

中国の現代小説を読み、その小説が含有する意味を考察する授業での発見でした。自分だけで読んでも感想ぐらいいいか浮かばなかったのですが、時代背景や執筆時に筆者が置かれていた状況などを考慮して読み深めていくことの必要性や、その方法を先生に教えていただいたことで、その小説が含有する意味や筆者の伝えたいことが考察できるようになりました。学問として小説を読む方法を教えていただき、自身の学びを深める経験になったと思っています。



中国語中国文学コースに とつての【旅】とは？

漢・許慎『説文解字』（紀元一〇〇年）に、「旅」の字形は旗のもと人が連なり進むさま、また原義は「軍之五百人」（五百人編成の旅団）としています。軍旗を掲げて集団で移動するところから後に「旅」は複数での移動を指す語となり、単独行には「遊」を用いて（これは後に陸を行く「遊」と水上を行く「遊」とに分化）、現代漢語で「旅游」を旅行の意で用いることに繋がっています。故郷を離れて学ぶことを「遊学」、本質を去って旅する人を「遊子」、仙界に思いをめぐらせるを「遊仙」と言い、他に「遊文（文学に潜心する・漢書）」「遊心（物事にこだわる・莊子）」「遊芸（教養の中に楽しむ・論語）」の例を見ると、「遊」とは生来のしがらみから解放され、好きなことに損得勘定抜きでどことん取り組むという、まさに子どもが純粋に「あそび」に没頭する姿勢にも通ずる意味を有する字であると言つて良いでしょう。さて、ここからは自ら「遊」する力をつけるべく、中文と一緒に様々な作品を読んでいくことにしましょう。

文…大岩本先生



Eibeigengobunka is designed to improve students' English competence and their knowledge of English linguistics and literature. It's a comprehensive English course, and the teachers on the course have a usefully varied range of skills. I think it's a good way to prepare for a job using English, which is valuable in today's global business world.

英米言語文化コースでは、学生が英語能力と英米文学・英語学の知識を身につけ、その能力を向上させることができるようになります。幅広い分野を網羅する英米言語文化コースの教員はさまざまな専門分野の知識を持っています。今日のグローバルなビジネス社会において英語にかかわる仕事の準備をするためにこのコースに来ることをおすすめします。

英米言語文化コースとは？

その魅力って？



文 英米言語文化コース
English and American Language and Literature
言語文化学科



先生ご自身の専攻とそのやりがいとは？

私の主たる研究分野はニュージーランド文学です。ニュージーランドは若い国なので、そもそも文学批評の対象としては十分でない作品をあつかう場合でも、その研究が国の発展に繋がることにやりがいを感じます。

My main area of research is New Zealand literature and, since New Zealand is a young country, I find it pleasant to think that I can contribute to the country's development even through something as inherently useless as literary criticism.



准教授
Ian Richards
【いあんりちやーず】
先生

三回生
佐藤 結理子
【さとう ゆりこ】
さん

瀬戸賢一
『英語多義ネットワーク辞典』
小学館

瀬戸先生は以前にこの英米言語文化コースに所属されていた先生です。

I recommend the Dictionary of Lexical Polysemy, (英語多義ネットワーク) published by Shogakukan, by Prof Kenichi Seto, a former teacher on the course.

先生
おすすめの
本



おすすめの授業は…
英米文学演習Ⅰ

英米文学演習Ⅰでは、『ドリアン・グレイの肖像』を原典で読みました。英語独特の表現や形容詞などを日本語に翻訳する際には、どの言葉を選ぶかで迷います。その迷う時間がとても楽しい！そしてぴったりの訳が自分の中で見つかった時の感動！田中先生の熱い説明もとてもおもしろく、お気に入りの授業です。

卒業論文タイトル紹介

- ・『ガリヴァー旅行記』と政治
- ・FALLING MANが描く9・11テロの世界
- ・What English Should We Learn?

学びの中でのエピソードを
教えてください

英米言語文化コースでは、常に英語に触れていられます。どの専門をとって「英語を読む」ことがかかせず、読む内容も、過去・現代の論文から小説まで幅広いです。中でも私は小説を原典で読むのが好きです。高校のころには習わなかった、感情の機微を表現する形容詞や英語独特の表現を読み進めていくのは本当に楽しいですよ！自分の中で、英語というものが、勉強としての英語から、文章を読むための方法としての英語へと変化しました。

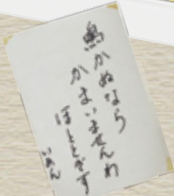


英米言語文化コースに
とつての【旅】とは？

海外への旅行は、あなたが英語を勉強した後に自分で感じる喜びであり、あなたが長らく大学で培ってきた学習の成果を試す絶好の機会です。だから、旅行する先で失敗を恐れずに英語を使ってみよう！コミュニケーションをとることはとても重要だと私は思います。たとえばうまいやりかたの一つとして、外国の語学学校に通い、ホームステイをしてみたり、もしくは思い切って旅行中に一日だけ現地の学校の授業に参加したりといった方法があります。様々な国から来た学生たちと新しく出会い交流するためには、これらの方法は最適と言えます。そして、もちろんそこであなたは共通言語としての英語を実感するでしょう。

文・リチャーズ先生

Travel is the reward that you give yourself after studying English, and it is an opportunity to use your skill. So I think it is important to try to use English when you are travelling and to avoid being shy. One of the best ways is to work through a language school and arrange a homestay and perhaps some half-day classes during your trip. It's actually a good way to meet a lot of other students from many different countries who are also at the school, and of course you will find that English is your common language.



ドイツ語圏言語文化領域とは？ その魅力って？

ドイツ語圏言語文化領域では、ドイツ、オーストリア、スイスの文学・文化、および言語を研究対象としています。演習ではドイツ語で語学教科書や近現代の文学作品を読み、講義科目ではこの語圏の文化、歴史、ドイツ語史について学びます。ネイティブ教員による会話の授業に積極的に参加すれば、読む・書く・聞く・話す力をバランスよく身につけることができます。語学研修および留学、スピーチコンテストへの参加、ドイツ語検定試験へのチャレンジャーなど、教室では積極的に学習のサポートをします。学生が企画する遠足、茶話会、立食パーティーや留学生とのタンデム（留学生と互いに言語を教えあう活動）など授業以外の活動も盛んです。

ドイツ語フランス語圏言語文化コース ドイツ語圏言語文化領域 German Language and Culture 言語文化学科

先生ご自身の専攻と
そのやりがいとは？

ドイツ語圏の現代文学が主な専攻です。テキストは生身の筆者とのコミュニケーションツールです。テキストは平面ですが読む作業を通して立体的に作品世界や筆者を立ち上げられます。作品は逃げないので普段の人間関係とは違い、じっくり解読できるおもしろさがあります。ドイツ現代文学は、敗戦の歴史とアウシュヴィッツの過去、東西分裂の影響で、政治を無視できず、誠実に問題について悩むというものが多いためです。戦前も仏・伊への文化的劣等感という問題がありました。一つの作品、作者の周囲の入り組んだ状況を理解するのもおもしろいです。



准教授
高井 絹子
【たかい きぬこ】
先生

三回生
長谷 涼美
【はせ すずみ】
さん



先生
おススメの本

矢野久美子 『ハンナ・アーレント』 中公新書

日本では 2013 年秋封切られたマルガレーテ・フォン・トロッタ監督『ハンナ・アーレント』も評判がよいようです。この政治哲学者の半生に映像からもアプローチできます。



おススメの授業は： ドイツ語圏文学史

この授業では各時代のドイツ語圏の文学、思想、作家を学びます。文学作品を読むだけでなく、歴史的背景まで先生が丁寧に教えてくださるので、ドイツ語圏について広く学べるだけでなく、予備知識も一気に増えました。特に文学や歴史に興味のある人にはおススメです。

卒業論文タイトル紹介

- ・ハウフのメルヘン観——ピーダーマイヤー期の社会状況との関連から
- ・ドイツの環境意識における多層性について——現実的な側面とその根底にあるもの——
- ・日本語にないドイツ語発音の表記法について——変母音と子音<r>を中心に——

学びの中でのエピソードを 教えてください

二回生からはネイティブの先生との授業が始まり、留学生と一緒に話す機会も増えました。すると海外から見た日本の姿というものを少しずつ意識できるようになり、普段よく目にするものが、実はドイツ語圏と関係があることや、留学生と話しているうちに日本にはこんな魅力があると再発見することもありました。日ごろからドイツ語圏のニュースに関心をもてるようになりまして、広く世界へ目を向ける姿勢ができてきたように感じます。

ドイツ語圏言語文化領域に とつての【旅】とは？

砂漠を旅するときには人は星を目印にする。なるほど星には手が届かない、だがその下にある旅の目的地に辿り着くことができる。こんなユダヤのことわざがあると、十代の頃に英語の先生から教わりました。ドイツ語を学んでいると、文法事項も語彙もまるで砂漠の砂粒のように数限りなく、途方に暮れるという経験を何度か味わうと思います。日本語でさえ覚えられないのに、という定番の愚痴が口をついて出てくるのもこんなとき。その言葉を使って生活をしている人々が地球の向こう側にいる、私たちが母語を大切にしている人たちが、そこで長い歴史と伝統、豊かな文化を育んでいるということ。文・高井先生



ドイツ語フランス語圏言語文化コース
フランス語圏言語文化領域
 Francophone Language and Culture
言語文化学科



**フランス語圏言語文化領域とは？
 その魅力って？**

この領域は、フランス、またはフランス語に関係していることならば、何でもできる場所です。あの六角形をしたフランス以外にも、世界中（欧州、南・中・北米、アフリカ、アジア、オセアニア）にひろがっているフランス語圏諸国・地域についても学ぶことができます。映画でも絵画でも料理でもファッションでも、マンガでもテレビでも、音楽でも舞台芸術でも、移民問題でも教育問題でも、歴史でも政治でも、そして、文学でも。これらのことを、フランス語の力を身につけながら学んでいくことができるのです。あるいは、これらを学ぶためにフランス語を身につけるのです。外国語は英語だけではありません。フランス語の窓からのぞくことで、視野が広がっていくのです。

**先生ご自身の専攻と
 そのやりがいとは？**

アンドレ・ジイドという作家について研究しています。彼は多くのおもしろさを秘めており、まず作品がおもしろい、また格調高い文章、書き方、技法がおもしろい、そして彼自身の生き方もおもしろいのです。小説、詩、戯曲、書簡、日記など彼に関する資料はたくさんあり、周りの人間が記録した彼の半生についての資料も存在し、一人の作家を内と外の両面から見ることができ稀な例です。彼を通して、文学の問題、モラルの問題、それから宗教・政治・社会問題に当たることが出来ます。彼は若いとき、年を取ったときそれぞれの興味に応じてくれる作家と言えるでしょう。



教授
津川 廣行 ▶
 【つがわひろゆき】先生
2014.1.20

三回生
中村 友洋 ▶
 【なかむらともひろ】さん
2014.1.20

E. シュレーディンガー
 岡小天・鎮目恭夫訳
 『生命とは何か』
 岩波文庫

DNA は二重螺旋をなすというあの発見に先立つこと約 10 年、量子力学の祖シュレーディンガーは、生命の情報がどのように保持され伝えられ時に変異を起こすかについての推論をする。なるほど、「考える」とは、こういうことだったのか！

**先生
 オススメの本**



フランス語
コミュニケーション
オススメの授業は…

この授業は、ネイティブの先生と一緒にフランス語で書かれたテキストを読むことや、あるテーマについてフランス語を使って実際に会話をするなど、実用的なフランス語能力を得ることのできる機会となっています。

卒業論文タイトル紹介

- ・アルペール・カミュ『異邦人』——ムルソーのエピキュリアンの気質について——
- ・ゴシック教会に見られる中世フランスの精神と社会
- ・メディアが創り出すパリ像～パリはなぜ「おしゃれ」であり続けるか～

**学びの中のエピソードを
 教えてください**

フランス語圏にかかわる歴史、文化、芸術、文学など様々なことについて学んでいく中で、今まで一面的にしか見ていなかったフランスという国に対する考え方が変わりました。フランスに對して今まで持っていたのは歴史ある国だという単純なイメージで、日本とは違う、外国の一つでしかありませんでした。フランス語圏言語文化領域で学ぶにつれ、フランスも日本と同じ、一つの国家であるということが、複数の視点から物事を考えることが必要だということを知りました。



**フランス語圏言語文化領域に
 とつての【旅】とは？**

あなたの心はきつと「旅」と聞くと高鳴るはず。ところが、旅はかつて、辛い大仕事でした。Travel は、フランス語の Voyager (仕事) から発しています。とはいえ、旅が「発見」の機会であることには昔も今も変わりありません。要衝の地フランスは、旅の交差点です。旅の目的地は、フランス本土だけでなく、フランス語圏へ、世界中へと広がっています。フランス語圏では、見、体験し、話す旅が待っています。

フランス文学・文化・言語学の旅を、歴史的に見ますと、フランス中世では、旅は、異郷の、そして異界の発見として描かれます。反対に、「場所の単一」を標榜する十七世紀の古典悲劇では、場所の移動は制限されることになりました。十八世紀の旅は、気候・風土・制度・生活様式の相対性を際立たせます。十九世紀の旅は、動く映像資料のない時代にあつて、教養を高める、高めさせる手段でした。可愛い子には旅をさせよ、ですね。また、開放された旅人は、仮面を捨てて、本性をあらわすはず。内面へのこの危険な旅が、二十世紀フランス文学なのです。さて、あなたは、どんな旅を試みたいですか。



文・津川先生

言語応用コースとは？ その魅力って？

本コースは日本語や英語、中国語などの様々な言語の特徴を、言語同士の比較や言語以外の分野に使われる実例に基づいて、実証的に考察することを学びます。人は相手の言葉に自分の言葉で応えることも、また言葉以外の手段でコミュニケーションをすることもあります。その根本は、自分と他者をつなぐ架け橋である「言葉」とその代替物によって、自分とは何か、それに相対する他者とは何かを知ることだと考えます。このコースで言葉について学ぶことを通して、「いま・ここ」にいる自分とは何か、それをどのような他者が取り巻いているのかを理解するための、「知性の足腰」を鍛えてもらいたいと思います。

言語応用 コース

Linguistics Applied

言語文化学科

先生ご自身の専攻と そのやりがいとは？

私は、言語学や言語比較論を教える一方で、個人的には、満洲語の研究を行っています。満洲語は、以前は中国の少数民族によって話されていたのですが、現在ではほとんど使用されていない言語です。しかし、少数民族の言語ならではのユニークさが見受けられます。満洲語には様々な言語の特徴が混ざっていて、研究していくと、中国語・日本語にも通じる特徴が発見できます。わかる人にはわかる、知る人ぞ知るような、マイナーな分野を突き詰めていく楽しみが満洲語にはあるのです。



山崎 雅人
【やまざき まさと】
先生



柴田 真友子
【しばたまゆこ】
さん

先生 おススメの本

黒田龍之助

『はじめての言語学』
講談社現代新書

町田健

『言語学が好きになる本』
研究社出版

両書とも少し前のものなので、公立図書館などで探してください。大阪市民の方は、学術情報総合センターで「図書市民利用制度」により読むことができます。

おススメの授業は： 言語比較論演習

身近な言語表現を題材に、言語と思考について考える授業です。日本語と英語の表現の違いに着目したとき、その違いがそれぞれの言語圏での価値観の違いと深く結びついているとわかりました。言語を文字上の意味だけではなく人の思考と互いに影響し合ったものとして捉えるおもしろさを感じました。



学びの中でのエピソードを 教えてください

このコースでは、様々な言語表現の構造や背景を探ったり、子供が言語を習得する過程を考えたりと、今まで考えたことのないような様々なアプローチで言語について学ぶことができます。そのため、日常に溢れる言葉や子供の発話などにも敏感になり、普段何気なく通るすきすきするような会話や文章などの表現でも、単なる文字や文法の集まりではなく、そこに人の意思や様々な背景が絡んでいるのだと考えられるようになりました。

卒業論文タイトル紹介

- ・ショッピングセンターの名前に見る言語感覚
- ・日本語における「カタカナ語」のたどる変遷
- ・コミュニケーション手段としてのツッコミの分析

言語応用コースにとつての 【旅】とは？

旅と言葉とえば、すぐに外国を旅することを思い浮かべるかもしれませんが、しかしに日頃親しんだ母語を離れ、もどかしい思いをしながらも意思を通じあえたときの喜びは、海外旅行の醍醐味と言えます。英語だけが世界の共有言語ではありません。旅で要求される文法や語彙はそれほど高度なものではなく、相手はこちらの言うことを理解しようとする「場の力」を借りて案外簡単に使えるものです。表面的な差異を乗り越えて、人であればみな心は同じというレベルまで到達すれば、旅の達人と言えるかと思えます。さて、言葉の旅はなにも外国だけではなくありません。日本は方言の多様さでも「言語の幸（さきわ）う国」でもあるのです。同じ意味を自分の知らない別の日本語で言えることがあることに、大学のような様々な出身地の人が会する場ではじめて気がつくことがあります。豊かな日本語の地域色を（地域「食」と共に）味わうことができるのも、この国を旅する楽しさであると思います。

文・山崎先生



文 表現文化 コース

Culture as Representation

言語文化学科

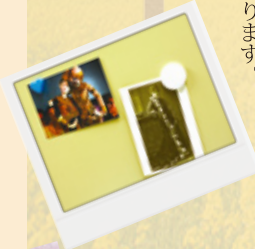


表現文化コースとは？
その魅力って？

表現文化学は、人間のあらゆる活動を表現行為であると捉え、それらが文化的にどのような役割を果たしているのかを考察する学問です。より具体的には映画や演劇など、従来の文学部の専門では十分に対応できなかった分野をあつかいますが、それ以外にも美術、漫画、ファンタジー、民話、ファッションなども考察の対象になります。また机の上の勉強だけでなく、アーツマネージメント実習のように、アートを通じて人と人をつなげるように結びつけるかについて考える実習形式の授業も行っています。このように既存の枠組みに囚われず、新しい研究対象をつくり出していかうとするのが表現文化コースの魅力です。

先生ご自身の専攻とそのやりがいとは？

表現文化コースでは、既存の分野に縛られず、今まで誰もやったことのない研究をできる楽しさがあります。最近私は記憶喪失というテーマが、小説や映画、ゲームや漫画、お芝居の中でどのように扱われてきたのかを研究しています。一見娯楽的な作品であっても、その中には時代背景やものの考え方が映し出されており、とても興味深いです。自分の好奇心に従って新しい発見に導かれるのは、とてもやりがいがあります。



教授
小田中章浩
【おだなかあきひろ】
先生

三回生
石川知樹
【いしかわともき】
さん



おすすめの授業は：
表現・表象文化論演習Ⅱ

アーツマネジメントと呼ばれる授業です。昨年は「キャンドルナイト」「あびこおもしろ展覧会」「附属病院でのコンサート」を行いました。班に分かれて自分たちで考えた企画を行います。作業を進めるなかでは大変なこともあります。積極的に動いた分だけやりがいを感じられる授業です。



先生
おすすめの
本

金子光晴
『ねむれ巴里（ぱり）』三部作
中公文庫

私が学部2年のとき、フランス語のクラスを担当していた原章二先生が推薦して下さった本の1つです。私の人生を変えるくらいのインパクトがあったと思います。

卒業論文タイトル紹介

- ・ジャニーズアイドルはなぜバレーボールコートで踊るのか
- ・ディズニー長編アニメーション作品におけるプリンセス像
- ・映画の中の昭和30年代



学びの中でのエピソードを教えてください

表文では小説、エッセイ、マンガ、アニメ、映画、演劇、写真、絵本などさまざまな種類の作品について分析を行います。そのなかで多くの作品に触れることになりました。そこはそれまで自分が知らなかったおもしろい作品であふれています。表文に入って、多くのおもしろい作品を見ていくうちに、自分分がそれまで興味が強かったものにも抵抗が少なくなりました。自分はそれまであまり行くことなかった美術館などにも足を運ぶようになりました。



表現文化コースにとつての

【旅】とは？

人はさまざまな理由で旅をするのですが、その多くは文化的な枠組みによって意味づけられています。つまり、私たちが旅に出たいと思うとき、それは単に個人的な動機によるだけでなく、何らかの「形」によって行われます。この「形」を決めるのは自分が属している文化です。こうした「形」の一つとして興味深いのが、十八世紀のイギリスで行われた「グランド・ツアー」です。（本城靖久『グランド・ツアー』中公新書。余暇としての旅がどのように生まれたかについては、専門的ですがアラン・コルバン『レジャーの誕生』という本があります。日本の場合では西行や芭蕉に代表される漂泊者の旅があるわけですが、それについて考えるには、まず柳田国男の著作に目を通しておく必要があります（たとえば『雪国の春』。また柳田に欠けていた視点を補うものとして佐野眞一『旅する巨人——宮本常一と渋沢敏三』もおもしろいですよ。

文・小田中先生